

受拂簿ヲ設備シ有價證券ノ受拂ヲ記帳整理スヘキモノナリ
領置物取扱主任ハ當該官署長ニ於テ職員中ヨリ之ヲ任命シ領置物出納簿ヲ設
備シ領置物ノ受拂ヲ記帳整理スヘキモノナリ

第四 歳入徴收官

歳入徴收官ノ取扱フヘキ帳簿ハ歳入歳出徴收簿及補助簿ノ二トス歳入徴收簿
ハ歳入徴收官ノ本簿ニシテ會計規則第百十四條ニ依リ之ヲ設備シ其ノ様式ハ
明治二十六年十一月大藏省令第三十二號諸計算書仕拂命令領收證及諸帳簿様
式第十一號ニ依リ記帳スルモノニシテ歳入徴收額計算書並證憑書ニ符合スヘ
キモノナリ而シテ收入濟額ハ現金收入ニ係ル收入官吏ノ報告書ノ計納入告知
書ノ收入ニ係ル金庫ノ領收濟通知書ノ計ニ合計シタル金高ニ符合スヘキモノ
トス補助簿ハ歳入中現金收入ニ屬セサル分即チ納入告知書ヲ發行シタル分ニ
限リ之ヲ記帳整理スヘキモノナリ

第五 檢定書

檢定書ハ會計規則第九十一條及第九十三條ニ依リ現金前渡官吏收入官吏及歳
入歳出外現金出納官吏ノ帳簿金櫃ヲ毎年三月三十一日若クハ該官吏轉免死亡

等ノ場合検査員ニ於テ検査シ左記ノ通調製スルモノナリ

一、現金前渡官吏ニ關スル檢定書ハ内譯簿ノ各款ニ渉ル現金ノ受入仕拂返納殘
高ノ各計現金出納簿及前年度ヨリ越高又ハ前任者ヨリ引受高ヲ調査シ違算
ナキヲ期シ調製スルモノナリ

二、收入官吏ニ關スル檢定書ハ收入簿ノ收入額拂込額拂込未濟額ノ各計現金出
納簿及前年度ヨリノ越高又ハ前任者ヨリ引受高ヲ調査シ違算ナキヲ期シ調
製スルモノナリ

三、歳入歳出外現金出納官吏ニ關スル檢定書ハ歳入歳出外現金出納内譯簿ノ受
入拂出殘高ノ各計現金出納簿及前年度ヨリ越高又ハ前任者ヨリ引受高ヲ調
査シ違算ナキヲ期シ調製スルモノナリ

以上各種ノ出納官吏同一人ナルトキハ現金出納簿受拂ノ各計ニ對シ内譯簿收入
簿歳入歳出外現金出納内譯簿ノ受拂各合計ハ符合スヘキモノニアラス何ントナ
レハ歳入歳出外現金ハ歳入歳出外現金出納官吏ノ資格ニテ現金出納簿並歳入歳
出外現金出納内譯簿ノ受入ニ記帳シ置キ精算ノ際本來ハ收入官吏ニ拂出ノ爲メ
右出納簿並内譯簿トモ拂出ニ記帳シ更ニ收入官吏ノ資格ニテ現金出納簿並收入

簿トモ受入且ツ金庫拂込ヲ爲シ之ヲ拂出記帳スヘキモノナルモ歳入歳出外現金
出納官吏ト收入官吏トハ同一ニシテ現金出納簿モ一冊ナル爲メ本件精算ノ場合
ノ如キハ歳入歳出外現金出納内譯簿ニハ拂出收入簿ニハ受ト拂トヲ記帳シ置キ
現金出納簿ノ方ハ單ニ拂ヲ一回ノミ記帳スヘキモノニ付結局出納簿ノ受拂ハ一
回記帳ニ止ムルヲ以テ其ノ受拂高ニ對シ内譯簿及收入簿トモ各受拂記帳ヲ合算
スルトキハ拾モ倍額トナリ雙方符合セサルヲ例トス然レトモ現金出納簿殘高ハ
各内譯簿收入簿殘高合計ト常ニ符合スヘキモノナリ

第十六章 物品會計規則

政府ノ財産中動産ニ屬スルモノハ物品會計規則ノ支配ヲ受ケ不動産ニ屬スルモ
ノハ官有財産管理規則ノ支配ヲ受クルモノニシテ物品會計規則ニ物品ト云フハ
概ネ民法上ノ動産ヲ指シタルモノナリ而シテ物品會計規則

第一條 此ノ規則ニ於テ物品ト稱スルハ政府ニ屬スル器具器械備品消耗品動物
其ノ他一切ノ動産ヲ云フ但シ陸海軍ノ兵備ニ關スルモノハ各其ノ規則ニ依ル
政府ノ保管ニ屬スル物品ニシテ各省大臣ニ於テ特ニ指定スルモノハ本規則ヲ

準用ス此ノ場合ニ於テハ各省大臣ヨリ會計検査院へ通知スヘシ

本條第一項ハ物品ノ定義ニシテ政府所有ノ有形上ノ動産全部ヲ云ヒタルモノナ
リ但書ハ陸海軍ニ於ケル普通物品以外ニ係ル兵備品ニ付テハ別ニ陸海軍兵備品
會計規則ニ依ルヘキノ規定ナリ

第二項ハ收府所有ノ物品ニアラスシテ政府ニ於テ保管ノ義務ヲ有スル物品ニシ
テ即チ金錢ニ於ケル歳入歳出外現金ノ如キモノニシテ政府所有ニアラサル物品
保管ニ關スル規定ナリ假令領置物品拾得物品證據物品等ノ如キハ所謂政府ニ於
テ保管ノ義務ヲ有スル物品ナリ是等ノ物品保管ニ就テハ物品會計規則ヲ準用ス
ルモノナリ而シテ此ノ場合ニ於テ政府ハ會計検査院ニ保管物品ノ規則ヲ通知ス
ヘキモノナリ恰モ歳入歳出外現金ニ對スル名稱ト等シク歳入歳出外物品ト稱ス
ヘキモノナルモ之ニ關シ未タ斯ル名稱ヲ規定シタルモノナシ

第二條 物品ノ會計ハ總テ年度ヲ以テ區分シ毎年四月一日ヨリ翌年三月三十一
日ニ至ル十二箇月ヲ以テ一年度トス

本條ハ物品會計年度ノ規定ニシテ會計法第一條會計年度ト同一ナリ而シテ物品
會計ニハ金錢出納ノ如ク別ニ整理期間ナルモノヲ要セサルヲ以テ之カ規定ナシ

即チ物品出納ニハ會計年度ノ期間内ニテ整理シ何等整理期間ヲ存置スル必要ナケレハナリ從テ第三條ノ如ク物品ハ現ニ其ノ出納ヲ執行シタル日ヲ以テ年度所屬區分ヲナスモノトス

第三條 物品ノ會計ハ現ニ其ノ出納ヲ執行シタル日ヲ以テ年度ノ所屬ヲ區分スヘシ

本條ハ會計規則第一條第二條ト同シク物品會計年度所屬區分ニシテ現ニ其ノ出納ヲ執行シタル日ヲ以テ年度所屬區分トナセリ從テ購入物品ニ關シ或ル場合ニ於テハ仕拂命令ハ前年度所屬ナル場合アリトスルモ物品ノ所屬年度ハ翌年度所屬トシテ整理セサルヘカラス故ニ年度末ニアリテハ仕拂命令及物品ノ年度ハ一ハ前年度所屬トナリ他ハ翌年度所屬トナルコトアリ之レ物品會計年度ハ現實出納シタル日ヲ以テ年度所屬ト爲シタル爲メナレハナリ又物品會計年度ニハ別ニ出納整理期間ノ必要ナキヲ以テ之カ規定ヲ要セサルナリ

第四條 物品ヲ保管シ之カ出納ヲ掌ル者ヲ物品會計官吏トス

本條ハ物品會計官吏ノ職務ヲ規定シタルモノニシテ物品ノ保管出納ヲ掌ルモノナリ

第五條 總テ物品ハ責任アル官吏ノ保管ニ付スヘシ

本條ハ政府所有ノ物品ハ總テ物品會計官吏ノ保管ニ付スヘキ規定ナリ從テ政府所有ノ物品ニシテ若シ物品會計官吏ノ保管ニ付セサルモノアルトキハ不當ニ付直チニ物品會計官吏ノ保管ニ付スヘキモノナリ

第六條 物品會計官吏ハ各省大臣ノ定メタル規程ニ據リタル命令アルニアラサレハ物品ヲ出納スルコトヲ得ス

本條ニ物品會計官吏ハ各省大臣ノ定メタル規定ニ據リタル命令アルニアラサレハ物品ヲ出納スルコトヲ得ストアリ故ニ物品出納ニ關シ各省大臣ニ於テ取扱規定ヲ定メサルヘカラス物品會計官吏ハ此ノ規定ニ依ル物品出納命令官ノ命令アルニアラサレハ物品ノ出納ヲナスヘキモノニアラス

第七條 物品會計官吏ハ其ノ故意怠惰ニ由リ保管物品ヲ亡失毀損シタルトキハ辨償ノ責ニ任スヘシ

本條ハ會計法第二十六條第二十七條ニ基キタル物品會計官吏ノ辨償責任ノ規定ニシテ即チ物品會計官吏ハ自己ノ故意怠惰ニ由リ保管ノ物品ヲ亡失毀損シタルトキ賠償ノ責任アルモノナリ然レトモ第八條規定ノ通り假令保管中ノ物品ト雖

モ各官吏以下ノ使用ニ供シタル物品即チ供用中ノ物品ノ亡失毀損ニ就テハ物品會計官吏カ合規ノ監督ヲ怠リタル場合ノ外ハ其ノ責任ヲ免ルコトヲ得ルモノナリ

第八條 各省大臣ノ定メタル規程ニ據リ各官吏以下ノ使用ニ供シタル物品ノ亡失毀損ニ就テハ物品會計官吏ハ合規ノ監督ヲ怠リタル場合ノ外ハ其ノ責任ヲ免ルコトヲ得

本條ハ物品會計官吏保管中ノ物品ト雖モ物品取扱規定ニ依リ各官吏供用中ノ物品ハ供用者ノ責任ニシテ此ノ供用物品ノ亡失毀損ニ就テハ物品會計官吏ノ辨償責任ナキ旨ヲ規定シタルモノナリ尤モ物品會計官吏カ取扱規定ニ反シタル監督ヲ爲シタル場合ハ假令供用中ノ物品ニ係ル亡失毀損ト雖モ責任アルモノナリ

第九條 物品會計官吏ハ各省大臣ノ命シタル代理官ノ所爲ニ就テハ其ノ責任ヲ免ルコトヲ得

物品會計官吏ノ代理官ハ其ノ代理官所爲ニ就テハ物品會計官吏タルノ責任ヲ免ルコトヲ得ス

本條ハ會計規則第八十四條第八十五條ト同シク代理官ノ責任ニ就キ規定シタル

モノナリ物品會計官吏ノ代理官ヲ置キタルトキハ物品會計官吏ハ其ノ代理官ノ出納保管ニ就キテハ責任ナク代理官自身辨償責任アル旨ヲ規定セリ

右代理官ノ行爲ハ物品會計官吏ノ補助トシテ事務ヲ取扱フモノニアラス代理官自身ノ行爲トシテ事務ヲ取扱フモノナルヲ以テ代理官ニ於テ責任ヲ負フモノナリ

第十條 物品會計官吏ハ物品ノ出納帳簿ヲ備ヘ其ノ出納ノ事實ヲ登記スヘシ

物品ノ消耗賣拂亡失毀損生産ノ爲メノ消費及其ノ他物品會計官吏ノ保管ヲ離ルルヲ出トシ買入生産及其ノ他其ノ保管ニ屬スルヲ納トス

本條ハ物品會計官吏ハ物品出納簿ヲ備ヘ出納ノ登記並ニ其ノ出納意義ノ規定ヲナセリ即チ物品出納簿ノ受入トハ如何拂出トハ如何ナルモノナルヤヲ示シタルモノナリ

物品會計規則第十條ノ二乃至第十二條ハ各省大臣ニ於テ各應物品検査ノ規定ニシテ其ノ中

第十條ノ二ハ四年以内ヲ一期トシ物品會計官吏ノ保管スル物品全部ヲ精細ニ検査セシメ其ノ調書ヲ作成セシムルモノナリ但シ廳中用物品ニ係ル検査ノ方法ハ

各省大臣ニ於テ別ニ定ムヘキモノナリ

第十一條ハ常時出納セサル倉庫若クハ貯藏所ノ物品検査ハ毎年一回宛目録ト現在品ノ照合検査ヲナサシメ調書ヲ作成セシムルモノナリ又物品會計官吏交替ノ際ニ於ケルモ同シ検査ヲナスモノナリ

第十二條ハ在外各廳其ノ他特ニ物品會計官吏ヲ置ク能ハサル支部局ニアル物品ハ前條ト同ク毎年一回宛検査ヲナサシムルモノナリ

以上ノ検査調書ニハ検査官吏及検査ヲ受ケタル物品會計官吏若クハ特ニ命セラレタル立會人之ニ署名スヘキモノナリ

第十五條乃至第十八條ノ二ハ會計検査院ニ對シ物品検査ノ爲メ提出スル計算書及證憑書ニ關スル規定ニシテ其ノ中

第十五條ハ物品會計官吏ヨリ會計検査院ニ提出スル物品出納計算書及證憑書ハ毎年度一回ナルコトヲ規定セリ而シテ交替ノ時モ前任官吏ハ右ト同ク計算書及證憑書ヲ提出スヘキモノナリ

第十七條ハ物品出納計算書ノ下検査執行ノ規定ニシテ各廳長官若クハ特ニ監督ノ任アル官吏ハ右下検査ヲ爲シ其ノ下検査書ヲ計算書ニ添付検査院ニ送付スヘ

キモノナリ

第十八條ハ常時出納ヲナササル倉庫若クハ貯藏所ノ物品又ハ在外各廳其ノ他特ニ主任ノ官吏ヲ置ク能ハサル支部局ノ物品ヲ保管スル物品會計官吏ハ検査調書ヲ以テ出納計算書ニ代ヘ責任解除ノ判決ヲ會計検査院ニ求ムルコトヲ得ルモノナリ

第十八條ノ二ハ會計検査院法第十六條ニ依リ委任検査ノ物品ニ對シテハ物品出納簿ヲ以テ出納證明ニ代ヘ出納計算書ヲ省略スルコトヲ得ルモノナリ

第十九條ハ物品會計官吏ニ對シ代理官若クハ分任官ヲ設置スルコト又ハ辨償命令若クハ身元保證金ニ關スル規定ヲ準用スルコトヲ得ル規定ナリ

第二十條ハ物品ノ保管出納ニ關スル規定及帳簿ノ様式ハ各省大臣ニ於テ之ヲ規定スヘキモ之カ發布以前ニ一應會計検査院ノ意見ヲ徵スルノ規定ナリ

第二十一條ハ各官吏執務上ニ必要ナル供用物品備付及之カ責任ニ關シ各省大臣ニ於テ之カ規定ヲナスヘキコトヲ規定シタルモノナリ

第十七章 検査証明

歳入歳出金決算確定検査ノ爲メ會計検査院ニ證明スル規定ノ重ナルモノハ憲法第七十二條會計法第十六、十七條會計規則第五十二條第九十七條乃至第一百一條第一百十一條第二百十條及物品會計規則第十五條乃至第二十條等ニシテ會計検査院ハ右會計規則第二百十條ニ依リ當該官吏及金庫出納役ヨリ會計検査院ニ提出セシムル計算書及證憑書ニ關シ院達ヲ以テ計算證明規程ヲ發布セリ

第一 會計規則第五十二條第二項ハ歳入徴收官ヨリ毎年度一回會計検査院ニ検査證明ノ爲メ提出スル歳入徴收額計算書ノ件ニシテ左ノ通規定セリ

「歳入ヲ徴收スル官吏ハ會計検査院ニ證明ノ爲メ毎年度歳入徴收額計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ其ノ歳入事務管理應ニ送付シ歳入事務管理應ハ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシトアリ

計算證明規程第六條ハ歳入徴收官ノ調製スヘキ歳入徴收額計算書ノ書式ヲ定メアリ第七條ハ歳入徴收額計算書ノ提出期限ニシテ内國稅ニ在リテハ翌年度七月十日限り關稅噸稅及租稅外歳入ニ在リテハ翌年度五月三十一日限りトセリ第九

條ハ歳入徴收額計算書ノ備考ニ記載スヘキ事項及説明書ノ事ヲ規定セリ又證憑書類ノ提出ニ付テハ第十條ニ於テ會計検査院ノ指定ニ從フトアルモ租稅ノ證憑書類ニ付テハ第十四條乃至第二十七條ニ於テ列記の規定セリ歳入證憑書類ノ編纂方法ハ第十一條ニ規定セリ計算證明ニ要スル證憑書ノ提出ハ原則トシテ原本ニ限ルヘキコトヲ總則第三條ニ規定シ例外トシテ原本ヲ提出シ難キトキハ當該主任者ノ保證アル謄本ヲ以テ之ニ換フルコトヲ規定セリ

租稅外歳入徴收額計算書ニ添付スヘキ調定濟歳入額明細書及證憑書類ニ關シ第二十九條乃至第三十四條ニテ規定セリ

第二 會計規則第五十二條第三項ハ仕拂命令官ヨリ毎一回會計検査院ニ検査證明ノ爲メ提出スル支出計算書ノ件ニシテ左ノ通規定セリ

「仕拂命令官ハ會計検査院ニ證明ノ爲メ毎月支出ノ計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ其ノ主管大臣ニ送付シ主管大臣ハ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシトアリ

仕拂命令官ノ調製スヘキ支出計算書ノ書式ハ計算證明規程第七號書式現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ調製スヘキ仕拂計算書ノ書式ハ同第八號書式ナルコトハ計算證明規程第三十五條ニ又右計算書提出期限ハ證憑書添付ノ上翌月十五日限りナ

ルコトハ同第三十六條ニ、證憑書類ハ各目ニ區分編纂シテ其ノ金額紙數ヲ表紙ニ記載シ概算渡ニ係ルモノアルトキハ其ノ金額ヲ附記スルコト等ハ同第三十八條ニ、支出計算書ノ備考ニ記入スヘキコトハ同第三十九條ニ、特別會計最終支出計算書添付ノ書類ハ同第四十條ニ、其ノ他最終支出計算書提出ノ際未精算未完結等ノ爲メ添付スヘキ書類ハ同第四十一條ニ、證憑書トシテ提出スヘキ書類ハ同第四十二條乃至第五十六條ニ規定セリ

第三 仕拂計算書ニ記入スヘキ備考、最終仕拂計算書提出ノ際添付スヘキ書類證憑書等ハ特ニ同第五十七條乃至第六十三條ニ規定セリ

會計規則第九十八條ノ一ハ現金前渡ヲ受ケタル官吏ヨリ毎月一回會計検査院ニ検査證明ノ爲メ提出スル仕拂計算書ノ件ニシテ左ノ如ク規定セリ

一 現金前渡ヲ受ケタル官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受ケタル爲メ毎月仕拂計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ仕拂命令官ニ送付シ仕拂命令官ハ其ノ下検査ヲ執行シ下検査書ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ但シ行軍費、航海費ノ如キハ行軍若クハ航海ノ終ハリタルトキ本條ノ手續ヲ爲スコトヲ得トアリ

第四 會計規則第九十七條ハ收入官吏ヨリ毎年度一回會計検査院ニ検査證明ノ

爲メ提出スル收入計算書ノ件ニシテ左ノ通規定セリ

收入官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受ケタル爲メ一年度内ニ執行シタル出納ノ計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ歳入ヲ徴收スル官吏ニ送付シ歳入ヲ徴收スル官吏ハ其ノ下検査ヲ執行シ下検査書ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシトアリ

右收入官吏ノ調製スヘキ收入計算書ノ書式ハ計算證明規程ノ第十三號、歳入歳出外現金出納官吏ノ調製スヘキ現金出納計算書ノ書式ハ同規程第二十四號ナルコトハ同規程第七十四條ニ規定セリ

計算書證憑書提出期限ハ同規程第七十五條ニ依リ年度經過後若クハ出納官吏交替後三十日限リトナセリ證憑書類ノ編纂ハ同規程第七十六條ニ、下検査ハ第七十七條、第七十八條ニ、收入計算書備考記載方ハ第八十條ニ、證憑書ノコトハ第八十二條ニ、歳入歳出外現金出納計算書ノ備考及證憑書ノコトハ第九十四條乃至第九十六條ニ規定セリ

第五 物品會計規則第十五條第一項ハ物品會計官吏ヨリ毎年度一回會計検査院ニ検査證明ノ爲メ提出スル物品出納計算書ノ件ニシテ左ノ如ク規定セリ

物品會計官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲メ毎年度間ニ執行シタル物品出納計算書ヲ調製シ會計検査院所定ノ期限内ニ證憑書類ヲ添ヘ之ヲ本屬大臣ニ差出スヘシトアリ第十五條第二項以下第十九條迄参照スルコト

同規則第二十條ハ物品ノ保管出納ニ關スル規定及帳簿様式ノ件ニシテ左ノ如ク規定セリ

「物品ノ保管出納ニ關スル規定及帳簿ノ様式ハ各省大臣之ヲ定メ發布前會計検査院ヘ通知スヘシトアリ

物品出納計算ノ證明ニ關シテハ計算證明規程第九十九條乃至第百八條ニ據ルモノナリ

出納期間及計算書提出期限ハ左ノ如シ

一 會計年度所屬歳入歳出ノ出納期間

- (1) 仕拂命令官仕拂命令發行 翌年度五月三十一日限
- (2) 誤拂過渡ノ定額戻入 翌年度五月三十一日限
- (3) 歳出歳入ノ金庫ニ於ケル出納 翌年度六月三十日限
- (4) 大藏省ニ於ケル主計簿締切 翌年度十月末日限

(5) 出納ニ關スル事務 翌年度十一月三十日限

二 計算書提出期限

- (1) 歳入徴收官提出スヘキ計算書
 - 各月徴收報告 翌月十五日限
 - 歳入徴收額計算書 翌年度七月十日限
 - 歳入繰越額計算書 翌年度四月十五日限
- (2) 收入官吏ノ提出スヘキ計算書
 - 收入計算書 翌年度四月十五日限(支替ノ都度キ)
- (3) 現金前涉官吏ノ提出スヘキ計算書
 - 毎月仕拂計算書及現計明細書 翌月七日限(支替ノトキハ仕拂計算書ハ其ノ都度)
 - 經費決算報告書 翌年度六月十五日限
- (4) 歳入歳出外現金出納官吏ノ提出スヘキ計算書
 - 歳入歳出外現金出納計算書 翌年度四月十五日限(支替ノ都度キ)
- (5) 物品會計官吏ノ提出スヘキ帳簿
 - 物品出納簿(計算書ノ提
出ニ代ヘ) 翌年度四月末日限

第十八章 官有財産管理規則

政府所有ノ金銭出納以外ノ財産ニ關スル保管規定ハ動産ニ在リテハ物品會計規則ニ依リ支配ヲ受ケ不動産ニ在リテハ官有財産管理規則ニ依リ支配ヲ受クヘキモノナリ而シテ官有財産管理規則ハ會計諸規則ト異ナリ左ノ通内地及各殖民地トモ各々規定ヲ爲シアルモ殖民地ノ規則ハ内地ノ分ヨリ後ニ規定シタル爲メ諸種ノ點ニ於テ進歩改善ヲ加ヘタル事項多シ

官有財産管理規則 明治二十三年勅令第二七五號

臺灣官有財産管理規則 明治三十五年勅令第三九號

朝鮮官有財産管理規則 明治四十四年勅令第二〇〇號

樺太官有財産管理規則 明治四十四年勅令第二八九號

依テ以上諸規則ノ内殖民地中朝鮮官有財産管理規則ノ條項ニ基キ之カ説明ヲ爲シ參照トシテ内地又ハ朝鮮以外ノ殖民地規則ヲ附加説明ス以下何條ト云ヘルハ總テ朝鮮官有財産管理規則ノ事ナリ

第一條官有財産ノ定義官有財産トハ國有ノ不動産、船舶及其ノ附屬物ヲ謂フトア

リ之ニヨレハ官有財産トハ獨リ國有ノ不動産ノミナラス船舶及其ノ附屬物トモ總テ官有財産管理規則ニ依リ支配ヲ受クヘキモノナリ而シテ船舶ハ性質上動産ナルニ拘ラス恰カモ民法上登記其ノ他ノ手續ヲ總テ不動産ト同一ニ取扱フト同シ規定ヲ爲セリ(官有財産ノ定義ニ關シ殖民地ハ同一ナルモ内地ノ分ハ官有財産トハ國ノ所有ニ屬スル土地、森林、原野、營造物、家屋、船舶及其ノ附屬物トストアリ) 第三條ハ公用中ノ官有財産ハ公用ヲ妨ケサル場合ニ限り其ノ使用ヲ許可スルコトヲ得ルモ賣拂、貸付、讓與又ハ交換スルコトヲ得サルモノトセリ(此ノ點殖民地ハ同一ナルモ内地ノ分ハ明記シアラス)

第四條ハ公用中ノ分ト否トニ拘ラス官有財産ノ管理又ハ處分ニ關係アル職員ニ對シ之ヲ賣拂、貸付、讓與又ハ交換スルコトヲ得サル旨ヲ規定セリ此ノ規定ハ職務上ノ弊害ヲ豫防スル點ニ於テ當然ノ規定ナリトス(此ノ點ハ殖民地及内地トモ同一ナリ)

第五條ハ官有財産ノ賣拂又ハ貸付ニ關シ隨意契約ヲ爲ス場合ヲ列記セリ而シテ其ノ列記事項ハ何レモ隨意契約ヲ爲シ差支ナキ場合ノミナリ(此ノ點モ殖民地ハ同一ナルモ内地ノ分ハ明記シアラス)

第六條ハ官有財産ヲ賣拂ヒタルトキハ其ノ代金完納後ニ非レハ之ヲ引渡スコトヲ得サル旨ノ規定ナリ元來政府ノ賣買契約ハ常ニ相手方タル人民ヨリノ履行ヲ先キニシ政府ノ履行ヲ後ニナスハ會計法上ノ原則ナルヲ以テ茲ニ注意的ノ規定ヲ爲シタルモノナリ(此ノ點モ前括弧ト同シ)

第七條ハ官有財産ハ公用ノ爲メ又ハ營利ヲ目的トセサル公共ノ利益トナルヘキ事業ノ爲ニスル場合ハ無料ニテ貸付シ又ハ使用ヲ許可スルコトヲ得ルモ其ノ他ハ總テ無料ニテハ貸與使用スヘカラサルモノナリ(此ノ點モ前括弧ト同シ)

第八條ハ官有財産ノ貸付料又ハ使用料ハ毎年之ヲ前納セシムル規定ナリ但シ相當ノ擔保アル場合ハ此ノ限ニアラス此ノ規定モ會計法上相手方ノ義務履行ヲ先ニ爲サシムル點ヨリ當然ノ規定ナリ(此ノ點ハ何レモ同シ)

第九條ハ官有財産ノ貸付期間ニシテ土地ハ二十年迄其ノ他ノ物件ハ三年迄ヲ超ユルコトヲ得サルモノトセリ然レトモ土地ノ利用ニ必要ナル工作物ヲ土地ト共ニ貸付スルトキハ其ノ土地ノ貸付期間之ヲ貸付スルコトヲ得ヘキモノナリ(此ノ點モ殖民地ハ同一ナルモ内地ノ分ハ貸付期間餘程延長シタルモノアリ)

第十條ハ貸付期間中公用ノ必要ヲ生シタルトキハ其ノ契約ヲ解除シ之ヲ返還セ

シメ此ノ場合借受人ニ損害ヲ生セシメタルトキハ其ノ賠償ヲ爲スモノナリ(此ノ點何レモ同シ)

第十一條ハ官有財産ヲ讓與スル場合ヲ列記セリ此ノ列記事項以外ハ讓與スル能ハサルモノナリ(此ノ點モ殖民地ハ同一ナルモ内地ノ分ハ明記ナシ)

第十二條ハ土地建物ハ公用ニ供シ若クハ公共ノ利益トナルヘキ事業ニ供スル爲メ必要ナルトキ又ハ官有地整理ノ爲メ必要ナルトキニ限り其ノ評定價格同一以上ノ土地建物ト交換スルコトヲ得ルモ其ノ他ハ總テ交換ヲ許ササルモノナリ(此ノ點ハ内地ノ分モ概ネ同一ノ明文アリ)

第十三條ハ官有財産ノ賣拂讓與交換又ハ貸付ノ契約ヲ解除スル場合ヲ列記シアリ(此ノ點ハ殖民地ハ同一ナルモ内地ノ分ハ明記シアラス)

第十四條ハ官有水面ハ公用ニ妨ナキ限り著手及成功ノ期限並一切ノ條件ヲ定メ其ノ埋立ヲ特許シ條件ノ定ムル所ニ從ヒ埋立地ノ全部又ハ一部ヲ其ノ起業者ニ賣拂貸付又ハ讓與スルコトヲ得ルノ規定ナリ(此ノ點ハ前括弧ト同シ)

第十五條ハ官有財産目録調製報告ノ規定ナリ(此ノ點ハ何レモ規定シアリ)

第十六條ハ官有財産増減報告書ノ規定ナリ(此ノ點ハ前括弧ト同シ)

第十七條ハ官有財産目録及官有財産増減報告書ヲ帝國議會ニ報告ノ規定ニシテ何レモ規定シアリ

官有財産管理ニ關スル參考事項

第一 保管者ハ官有財産ノ維持保存及取締ノ責任アルヲ以テ官有財産ノ臺帳並圖面ヲ備ヘ之ヲ整理スヘキモノナリ

第二 官有財産ノ保管換ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ノ書面必要ナリ

一、所在地、地目

二、名稱、種類及數量

三、所要ノ目的及事由

四、圖面

五、保管者ト協議濟ノ書類

六、船舶ノ場合ニハ前項第一號ニ付テハ船籍港又ハ定繫場第二號ノ數量ニ付テハ噸數又ハ積石數ヲ記載ノコト

第三 官有財産ノ維持保存其ノ他ノ必要ニ依リ其ノ保管ノ寄託ヲ要スルトキハ左記事項ノ書面必要ナリ

一、所在地、地目

二、名稱、種類及數量

三、受寄者ノ住所氏名

四、事由

五、寄託ノ條件及期間

六、寄託料ヲ要スルモノハ其ノ金額

七、圖面

第四 官有財産ノ貸付又ハ賣拂ヲ要スルモノアルトキハ左記事項ノ書面必要ナリ

一、出願者ノ住所氏名

二、所在地、地目

三、名稱、種類及數量

四、事由(借受又ハ使用ノ目的)

五、貸付ニ在リテハ貸付ノ條件及期間

六、豫定價格下調書(料金)之ハ封書トナスコト

七、圖面

第五 官有財産ヲ交換セントスルトキハ左記事項ノ書面必要ナリ

一、交換物件ニ關スル所在地、地目

二、同上ノ名稱、種類及數量

三、交換者ノ住所氏名

四、事由

五、交換者ノ提供スヘキ物件ノ登記又ハ證明謄本

六、交換物件ノ圖面

七、交換者ノ願書又ハ承諾書及交換物件ニ對スル評定價格書ノ添附

第六 官有財産ニ編入スヘキ物件ノ寄附ヲ出願セントスル者アルトキハ左記事項ノ書面必要ナリ

一、所在地、地目

二、名稱、種類及數量

三、價格

四、出願者ノ住所氏名

五、寄附ノ目的

六、物件ノ權利關係及關係人ノ住所氏名

七、圖面

第七 天災其ノ他ノ事故ニ因リ官有財産ニ損害ヲ生シタルトキハ左記事項ノ書面必要ナリ

一、所在地、地目

二、名稱、種類及數量

三、原因

四、損害ノ程度並價格

五、被害ノ部分ヲ示シタル圖面

六、處理ニ關スル意見

第八 官有地ノ境界上必要ノ箇所ニハ成ルヘク不朽ノ材料ヲ以テ境界標ヲ建設スヘキコト

第九 官有財産ノ價格ハ左ノ區分ニ依ルコト

一、買入又ハ製造ニ係ルモノハ其ノ買入金額又ハ製造費

- 二、新築又ハ増築ニ係ルモノハ其ノ建築費但シ材料ノ一部トシテ在來ノ物品又ハ他工事ノ殘品ヲ使用シタルトキハ其ノ價格ヲ合算ノコト
- 三、機械類据付ニ係ルモノハ其ノ代價及据付費
- 四、埋立ニ係ルモノハ其ノ埋立費
- 五、交換ニ係ルモノハ交換ノ時ニ於ケル評定價格
- 六、收用ニ係ルモノハ其ノ補償金額
- 七、前各號以外ノモノハ其ノ評定價格

第十九章 會計検査院ノ組織並權限

會計ノ検査ハ豫算實行ノ事前又ハ事後ニ於テ之カ検査ヲナスヘキモノナリ而シテ検査應ハ獨リ會計検査院ノミナラス各省以下ノ會計官吏ニ對シ其ノ上級監督官廳ニ於テ検査ヲナスヘキモノナルモ會計検査ノ主タル官廳ハ會計検査院ナリ而シテ會計検査院ノ検査ハ原則トシテ書面検査ヲ爲シ例外トシテ實地検査ヲ爲シ或ハ或ル事項ハ検査ヲ委託スルコトアルモ總テ検査ハ事後ノ検査ニシテ事前ノ検査ニアラス又機密費ハ検査スヘキモノニアラス

憲法第七十二條ニヨレハ會計検査院ノ組織職權ハ法律ニ依リ定メラレタルモノナリ而シテ會計検査院法第一條ニ依レハ會計検査院ハ天皇ニ直隸シ國務大臣ニ對シ特立ノ地位ヲ有ストアルヲ以テ會計検査院ハ普通ノ行政廳ト地位ヲ異ニス即チ検査院ハ法律ニテ構成ス普通ノ官制權ニテ職制ヲ定メス然レトモ其ノ職務ノ實質ハ行政官廳ナリ特立ノ地位トハ天皇ニ直隸シ國務大臣ヨリ何等ノ指揮命令ヲ受ケサルコトヲ云フ即チ國家又ハ統治者ヨリ獨立シタルモノナリトノ意義ニアラス國務大臣ノ監督訓令ノ下ニ立タサルヲ云フモノナリ

院法第六條第二項ニ依レハ會計検査官ハ刑事裁判若クハ懲戒裁判ニ依ルニアラサレハ其ノ意ニ反シテ退官轉官又ハ非職ヲ命セララルコトナシトアリ即チ本條ハ會計検査官ノ身體ニ對スル保證ニシテ検査官ハ裁判官ト同シク其ノ意ニ反シテ退官轉官又ハ非職ヲ命セララルコトナク所謂終身官タルノ保證ヲ爲シタルモノナリ

第七條ニ依レハ父子兄弟ハ同時ニ會計検査官トナルコトヲ得ストアルハ検査院ノ組織ハ検査官ヨリ成ル合議體ナルカ如キヲ以テ偏頗ノ處置ナキヲ期シタルモノナリ

第八條ニ依レハ會計検査官ハ他ノ官職ヲ兼ネ及帝國議會又ハ地方議會ノ議員トナルコトヲ得ストアルハ政黨政派ニ關係ナカラシメ公平ヲ期シタル爲ナリ

検査院ノ執行機關ハ第十條第十一條ニ規定セリ

第十條ニ依レハ左ノ場合ニ於テ總會議ヲ以テ議決ス

一、第十五條ニ依リ上奏ヲ爲シ又ハ 天皇ノ下問ニ奉答スルトキ

而シテ第十五條ハ會計検査院ハ各年度ノ會計検査成績ヲ上奏シ其ノ成績ニ就テ法律又ハ行政上ノ改正ヲ必要トスヘキ事項アリト認ムルトキハ併セテ意見ヲ上奏スルコトヲ得トアリ即チ毎年度検査成績書並ニ其ノ成績書ニ基キ法令ノ改正意見ヲ上奏ノトキ

二、第十四條ニ依リ報告書ヲ確定スルトキ

而シテ第十四條ハ會計検査院ハ憲法第七十二條ニヨリ決算ヲ検査確定スルト同時ニ左ノ諸項ニ付報告書ヲ作ルヘシ

(1) 總決算及各省決算報告書ノ金額ト各出納官吏ノ提出シタル計算書ノ金額ト符合スルヤ否ヤ

(2) 歳入ノ賦課徴收歳出ノ使用官有物ノ得有沽賣讓與及利用ハ各其ノ豫算ノ規

程又ハ法律勅令ニ違フコトナキヤ否ヤ

(3) 豫算超過又ハ豫算外ノ支出ニシテ議會ノ承諾ヲ受ケサルモノナキヤ否ヤ

以上ヲ約言セハ(1)ハ計算ノ正否(2)ハ法規適用ノ正否(3)ハ豫算遵守ノ正否如何ヲ検査シタル結果ニ依リ検査報告書ヲ作ルモノナリ

三、第十七條ニ依リ意見ヲ陳述スルトキ

而シテ第十七條ハ金庫ノ出納及簿記上ニ關スル各省ノ命令ニ付會計検査院ハ其發布ノ前通知ヲ受ケ意見アルトキハ之ヲ陳述スルコトヲ得

會計検査院ハ收入及支出ニ關スル規則ヲ定メ既定ノ規則ヲ改正スル各省ノ命令ニ付其ノ發布ノ前通知ヲ受ク即チ帳簿收入及支出ニ關スル規定發布前ニ一應該案ノ通知ヲ得テ同意不同意ノ意見ヲ陳述スルモノナリ

四、検査事務ノ規程計算證明ノ様式及提出ノ期限ヲ定メ又ハ之ヲ改正スルトキ即

チ會計検査院ノ證明規程又ハ計算書證憑書提出期限ヲ定ムル場合ナリ

五、其ノ他院長ニ於テ總會議ニ付スルノ必要アリト認メタルトキ

第十一條ニ依レハ計算検査ノ判決ハ凡テ會議ニ於テス其ノ總會議ニ於テスルト部會議ニ於テスルトハ會計検査院長ノ定ムル等ニヨルトアリ

即チ検査ノ結果責任ノ有無ニ關スル判決ハ凡テ會議ニ於テ之ヲ決ス院長ハ單獨ニテ決スヘキモノニアラス而シテ賠償責任ノ如キ重要事項ハ概ネ總會議ニ付シ何等賠償責任ナク認可狀交付ノ如キ場合ハ多ク部會議ニ付スルモノナリ會計検査院ノ職權

検査ノ範圍ハ院法第十二條ニ規定シテ曰ク會計検査院ハ官金ノ收支官有物及國債ニ關スル計算ヲ検査確定スルモノナリ會計検査院ハ原則トシテ總テ國庫ノ收入支出ノ決算ヲ検査スルモノナルモ政府ノ機密費ニ關スル計算ハ例外トシテ其ノ検査以外ニ屬セリ(院法第二十三條)

院法第十二條及第十三條ハ検査事項ヲ列記シテ曰ク

- 一、總決算
- 二、各官廳及官立諸營造ノ收入及官有物ニ關スル決算
- 三、政府ヨリ補助又ハ特約保證ヲ與フル團體及公立私立諸營造ノ收支ニ關スル決算
- 四、法律勅令ニヨリ特ニ會計検査院ノ検査ニ屬セラレタル決算假令歳入歳出外ノ現金計算ノ如シ)

検査院ハ行政廳ノ決算報告ヲ俟テ後行政上ノ處分ヲ審査スルモノニシテ自ら發議ノ權ヲ採リ國務大臣ノナシツツアル行政處分ニ干涉スルモノニアラス検査院ハ違法ノ行政處分ヲ發見シタルトキハ天皇ニ上奏スルニ止マリ行政官府ニ對シ之ヲ差止ムル訓令ヲ發スル權ナシ

以上ノ諸項ヲ院法第十四條ハ規定シテ曰ク

一、總決算及各省決算報告書ノ金額ト各出納官吏ノ提出シタル計算書ノ金額ト符合スルヤ否

即チ本項ハ各官廳ノ決算ノ數字正確ナリヤ否ヤ又決算報告書ノ金額ト收支ノ現計ト符合スルヤ否ヤ金庫ノ現金カ其ノ帳簿ト符合スルヤ否ヤ現金出納保管ノ任ニ當ル者ニ對シ之ヲ行フ

二、歳入ノ賦課徴收歳出ノ使用官有物ノ得有沽賣讓與及利用ハ各其ノ豫算ノ規程又ハ法律勅令ニ違フコトナキヤ否ヤ

即チ本項ハ出納ノ命令官廳ニ對シ其ノ命令カ正當ニ行ハレタルヤ否ヤ即チ命令官廳トハ各省大臣ヲ始メトシ一般ニ歳入徴收官仕拂命令官ニ對シ法規命令カ充分行ハレタルヤ否ヤ法規適用ノ正否ヲ検査ス

三、豫算超過又ハ豫算外ノ支出ニシテ議會ノ承諾ヲ受ケサルモノナキヤ否ヤ
即チ本項ハ會計上ノ出納ハ豫算ノ規定ニ準據セルヤ否ヤ或ハ豫算ノ超過若ク
ハ豫算外ノ支出ニシテ議會ノ承諾ヲ受ケサルモノナキヤ否ヤ出納カ法規又ハ
豫算ニ遵由セルヤ否ヤ等豫算施行ノ適否ヲ検査ス

會計検査院カ收支ノ命令系統ニ對シテ爲ス検査ハ左ノ如シ

- (1) 其ノ收支カ法規ニ違反スルコトナキヤ否ヤ
- (2) 法規ニ違反セサルモ其ノ收支カ不當ナラサルヤ否ヤ
- (3) 其ノ收支カ豫算ニ遵由スルヤ否ヤ

出納官吏ニ對スル検査ハ左ノ如シ

- (1) 其ノ出納計算ニ誤謬ナクシテ現金ハ正確ニ存在スルヤ否ヤ
 - (2) 法律命令ニ違反スル收支ノ命令ニ對シ出納ヲナセシヤ否ヤ
- 會計検査院法第十五條ニヨレハ會計検査院ハ各年度ノ會計検査ノ成績ヲ上奏シ
其ノ成績ニ付テ法律又ハ行政上ノ改良ヲ必要トスヘキ事アリト認ムルトキハ併
セテ意見ヲ上奏スルコトヲ得トアリ即チ會計検査院ハ行政上改良スヘキ點ニ付
テハ上奏ヲ爲シ得ヘキ旨ヲ規定セリ

會計検査院事務章程第二十七條ニ依レハ検査院ハ検査ノ事項ニ付當該官吏ニ對
シテ審理ヲ發シ國務大臣ニ對シテハ質問書又ハ注意書ヲ發スルコトヲ得トアリ
審理書ノ目的ハ法規ニ違反シ仕拂ヲナシタルヤ否ヤ或ハ不明瞭ノ件ニ關スルコ
トアリ又ハ將來ニ對シ注意等ヲ與フルコトアリ
出納官吏ノ答辨カ不適當ナリト認メタルトキハ本屬長官ニ對スル處分要求書ト
ナリ當該官吏ハ之ニヨリ處分セラルルモ命令官ニ對シ答辨適當ナラスト認ムル
モ何等ノ處置ヲナス能ハス唯検査報告書又ハ検査成績書ニ記載シ主權者又ハ議
會ニ提出スルモノナリ

帝國議會ノ決議ト會計検査院ノ検査報告ト其ノ見解ヲ異ニシタルトキ即チ検査
院ハ政府ノ處置ヲ違法又ハ不當トシ議會ハ適法又ハ正當ナリト爲シタルトキハ
止ムヲ得ス何等ノ處置スヘキ途ナシ何ントナレハ議會ハ議會獨特ノ權能ヲ以テ
議決シ検査院ハ検査院特有ノ職權ヲ以テ検査確定シタルモノナレハナリ
議會ハ検査院ノ検査報告政府ノ辨明書其ノ他ノ材料ニ付收入支出カ適當ニ行ハ
レタルヤ否ヤヲ審議スルモノナリ

出納官吏ニ對スル處分要求書ハ検査ノ結果正當ナラスト認メタルトキ發スルモ

ノナリ若シ正當ト判決シタルトキハ認可狀ヲ交付スルモノナリ認可狀ハ責任解除ノ效力ヲ生ス即チ出納官吏ニ對スル會計法上ノ責任解除ナリ
會計検査院ノ判決ナルモノハ司法裁判所ノ判決ト異ナリ司法裁判所ノ判決ナルモノハ直接ニ當事者其ノ人ニ對シ效力アルモ検査院ノ判決ハ直接ニ當事者ニ對シ宣告スルモノニアラスシテ單ニ本屬長官ニ對シ爲ス處ノ一ノ通告タルニ止マリ本屬長官ハ其ノ通告書ノ内容ニ從ヒ處分ヲナスヘキモノトス若シ本屬長官ニシテ之カ處分ヲ怠ルコトアルトキハ検査成績書ニ記載シ上奏スルノミ
判決ノ性質ハ以上ノ如ク直チニ本人ニ對シ執行處分ヲナスノ效力ヲ生スルモノニアラス即チ院法第二十條ニヨレハ會計検査院ノ出納官吏ノ計算書及證憑書類ヲ検査シ正當ナリト判決シタルトキハ當該官吏ニ對シ認可狀ヲ交付シ其ノ責任ヲ解除ス若シ必要ナル場合ニ於テハ之ヲ推問シ辨明又ハ正誤ヲ爲サシメ尙正當ナラスト判決シタルトキハ本屬長官ニ移牒シテ處分ヲ爲サシムトアリ之ニ依レハ本屬長官處分要求書ヲ受クルトキハ部下ノ出納官吏ニ對シテ處分ヲ爲ササルヘカラス

認可狀ナルモノハ出納官吏ノ既往ノ計算ニ關スル責任ヲ解除スルモノニシテ一

種ノ證明書ナリ認可狀ハ民事上及刑事上ノ責任ニ付テハ何等ノ效力ヲ有セサルモノナリ

會計検査ハ書面検査ヲ原則トシ實地検査ヲ例外トシ(第十九條)又第十六條ニヨレハ委託検査ナルモノアリ此ノ場合ニハ責任解除ハ當該委託官廳ニ屬スルモノナリ検査院ハ決算ヲ検査確定スト雖モ行政官ニ對シテハ批評者ノ地位ニ立ツニ過キス

政府ハ決算カ検査院ノ検査ヲ經タルトキハ更ニ其ノ決算ヲ議會ニ提出セサルヘカラス而シテ議會決算審議ノ材料ハ會計法第十六條第十七條規定ノ通ニシテ左ノ如シ

一、總決算書

二、會計検査院ノ検査報告

三、各省決算報告

四、國債計算書

五、特別會計計算書

議會ハ以上ノ材料ニヨリ審査議決スルモ決算ハ過去ノ事實ニ過キサレカ故ニ豫

算ノ如ク政府ノ行動ヲ羈束スルモノニアラス單ニ過去ノ事實ニ對シ國務大臣ノ責任ヲ問フモノナリ

第二十章 會計法規類參照

○會計法

二十二年二月 法律第四號 改正 三十五年 法律第四十七號 三十五年 法律第四十八號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ會計法ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

會計法

第一章 總則

第一條 政府ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

一會計年度所屬ノ歳入歳出ノ出納ニ關ル事務ハ翌年度十一月三十日マテニ悉皆完結スヘシ

第二條 租稅及其ノ他一切ノ收納ヲ歳入トシ一切ノ經費ヲ歳出トシ歳入歳出ハ總豫算ニ編入スヘシ

第三條 各年度ニ於テ決定シタル經費ノ定額ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ經費ニ充ツルコトヲ得ス

第四條 各官廳ニ於テハ法律勅令ヲ以テ規定シタルモノノ外特別ノ資金ヲ有スルコトヲ得ス

第二章 豫算

第五條 歳入歳出ノ總豫算ハ前年ノ帝國議會集會ノ始ニ於テ之ヲ提出スヘシ必要避クヘカラサル經費及法律又ハ契約ニ基ク經費ニ不足ヲ生シタル場合ノ外追加豫算ヲ提出スルコトヲ得ス

第六條 歳入歳出ノ總豫算ハ之ヲ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部中ニ於テ之ヲ款項ニ區分スヘシ

總豫算ニハ帝國議會參考ノ爲ニ左ノ文書ヲ添付スヘシ

第一 各省ノ豫定經費要求書但シ各項中各目ノ明細ヲ記入スヘシ

第二 其ノ年三月三十一日ニ終リタル會計年度ノ歳入歳出現計書

第七條 豫算中ニ設クヘキ豫備費ハ左ノ二項ニ分ツ

第一 豫備金

第二 豫備金

第一豫備金ハ避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フモノトス

第二豫備金ハ豫算外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツルモノトス

第八條 豫備金ヲ以テ支辨シタルモノハ年度經過後帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

第九條 毎年度大藏省證券發行ノ最高額ハ帝國議會ノ協賛ヲ經テ之ヲ定ム

第三章 收 入

第十條 租稅及其ノ他ノ歳入ハ法律命令ノ規程ニ從ヒ之ヲ徵收スヘシ

法律命令ニ依リ當該官吏ノ資格アル者ニ非サレハ租稅ヲ徵收シ又ハ其ノ他ノ歳入ヲ收納スルコトヲ得ス

第四章 支 出

第十一條 毎會計年度ニ於テ政府ノ經費ニ充ツル所ノ定額ハ其ノ年度ノ歳入ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第十二條 國務大臣ハ豫算ニ定メタル目的ノ外ニ定額ヲ使用シ又ハ各項ノ金額ヲ彼此流用スルコトヲ得ス

國務大臣ハ其ノ所管ニ屬スル收入ヲ國庫ニ納ムヘシ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第十三條 國務大臣ハ其所管定額ヲ使用スル爲ニ國庫ニ向ヒテ仕拂命令ヲ發スヘシ但シ別ニ定ムル所ノ規程ニ從ヒ他ノ官吏ニ委任シテ仕拂命令ヲ發セシムルコトヲ得

第十四條 國庫ハ法律命令ニ反スル仕拂命令ニ對シテ仕拂ヲ爲スコトヲ得ス

第十五條 國務大臣ハ政府ニ對シ正當ナル債主若ハ其ノ代理人ノ爲ニスルニ非サレハ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得ス

左ノ諸項ノ經費ニ限リ國務大臣ハ主任ノ官吏ニ委任シ又ハ政府ノ命シタル銀行ニ委任シテ現金支拂ヲ爲サシムル爲ニ現金前渡ノ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得

第一 國債ノ元利拂

第二 軍隊軍艦及官船ニ屬スル經費

第三 在外各廳ノ經費

第四 前項ノ外總テ外國ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費

第五 運輸通信ノ不便ナル内國ノ地方ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費

第六 廳中常用雜費ニシテ一箇年ノ總費額千圓ニ滿タサルモノ

第七 場所ノ一定セサル事務所ノ經費

第八 各廳ニ於テ直接ニ從事スル工事ノ經費但シ一主任官ニ付六千圓マテヲ限ル

第五章 決算

第十六條 會計検査院ノ検査ヲ經テ政府ヨリ帝國議會ニ提出スル總決算ハ總豫算ト同一ノ様式ヲ用キ左ノ事項ノ計算ヲ明記スヘシ

歳入ノ部

歳入豫算額

調定済歳入額

收入済歳入額

收入未済歳入額

歳出ノ部

歳出豫算額

豫算決定後増加歳出額

仕拂命令済歳出額

翌年度繰越額

第十七條 前條ノ總決算ニハ會計検査院ノ検査報告ト俱ニ左ノ文書ヲ添附スヘシ

第一 各省決算報告書

第二 國債計算書

第三 特別會計計算書

第六章 期滿免除

第十八條 政府ノ負債ニシテ其ノ仕拂フヘキ年度經過後滿五箇年内ニ債主ヨリ支出ノ請求若ハ仕拂ノ請求ヲ爲ササルモノハ期滿免除トシテ政府ハ其ノ義務ヲ免ルルモノトス但シ特別ノ法律ヲ以テ期滿免除ノ期限ヲ定メタルモノハ各各其ノ定ムル所ニ依ル

第十九條 政府ニ納ムヘキ金額ニシテ其ノ納ムヘキ年度經過後滿五箇年内ニ上納ノ告知ヲ受ケサルモノハ其ノ義務ヲ免ルルモノトス但シ特別ノ法律ヲ以テ期滿免除ノ期限ヲ定メタルモノハ各々其ノ定ムル所ニ依ル

第七章 歳計剩餘定額繰越豫算外收入及定額戻入

第二十條 各年度ニ於テ歲計ニ剩餘アルトキハ其ノ翌年度ノ歲入ニ繰入ルヘシ
第二十一條 豫算ニ於テ特ニ明許シタルモノ及一年度内ニ終ルヘキ工事又ハ製造ニシテ避クヘカラサル事故ノ爲ニ事業ヲ遅延シ年度内ニ其ノ經費ノ支出ヲ終ラサリシモノハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第二十二條 數年ヲ期シテ竣功スヘキ工事製造及其ノ他ノ事業ニシテ繼續費トシテ總額ヲ定メタルモノハ毎年度ノ仕拂殘額ヲ竣功年度マテ遞次繰越使用スルコトヲ得

第二十三條 誤拂過渡トナリタル金額ノ返納出納ノ完結シタル年度ニ屬スル收入及其ノ他一切豫算外ノ收入ハ總テ現年度ノ歲入ニ組入ルヘシ但シ法律勅令ニ依リ前金渡概算渡繰替拂ヲ爲シタル場合ニ於ケル返納金ハ各々之ヲ仕拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入ルルコトヲ得

第八章 政府ノ工事及物件ノ賣買貸借

第二十四條 法律勅令ヲ以テ定メタル場合ノ外政府ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ハ總テ公告シテ競争ニ付スヘシ但シ左ノ場合ニ於テハ競争ニ付セス隨意ノ約定ニ依ルコトヲ得ヘシ

第一 一人又ハ一會社ニテ專有スル物品ヲ買入レ又ハ借入ルルトキ

第二 政府ノ所爲ヲ祕密ニスヘキ場合ニ於テ命スル工事又ハ物品ノ賣買貸借ヲ爲ストキ

第三 非常急速ノ際工事又ハ物品ノ買入借入ヲ爲スニ競争ニ付スル暇ナキトキ

第四 特種ノ物質又ハ特別使用ノ目的アルニ由リ生産製造ノ場所又ハ生産者製造者ヨリ直接ニ物品ノ買入ヲ要スルトキ

第五 特別ノ技術家ニ命スルニ非サレハ製造シ得ヘカラサル製造品及機械ヲ買入ルルトキ

第六 土地家屋ノ買入又ハ借入ヲ爲スニ當リ其ノ位置又ハ構造等ニ限アル場合

第七 千圓ヲ超エサル工事又ハ物品ノ買入借入ノ契約ヲ爲ストキ

第八 見積價格四百圓ヲ超エサル動産ヲ賣拂フトキ

第九 軍艦ヲ買入ルルトキ

第十 軍馬ヲ買入ルルトキ

第十一 試験ノ爲ニ工作製造ヲ命シ又ハ物品ヲ買入ルルトキ

第十二 慈惠ノ爲ニ設立セル教育所ノ貧民ヲ備役シ及其ノ生産又ハ製造物品ヲ直接ニ買入ルルトキ

第十三 囚徒ヲ備役シ又ハ囚徒ノ製造物品ヲ直接ニ買入ルルトキ及政府ノ設立ニ係ル農工業場ヨリ直接ニ其ノ生産又ハ製造物品ヲ買入ルルトキ

第十四 政府ノ設立シタル農工業場又ハ慈惠教育ニ係ル各所ノ生産製造物品及囚徒ノ製造物品ヲ賣拂フトキ

第二十五條 軍艦兵器彈藥ヲ除ク外工事製造又ハ物件買入ノ爲ニ前金拂ヲ爲スコトヲ得ス

第九章 出納官吏

第二十六條 政府ニ屬スル現金若ハ物品ノ出納ヲ掌ル所ノ官吏ハ其ノ現金若ハ物品ニ付一切ノ責任ヲ負ヒ會計検査院ノ検査判決ヲ受クヘシ

第二十七條 前條ノ官吏水火盜難又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ其ノ保管スル所ノ現金若ハ物品ヲ紛失毀損シタル場合ニ於テハ保管上避ケ得ヘカラサリシ事實ヲ會計検査院ニ證明シ責任解除ノ判決ヲ受クルニ非サレハ其ノ負擔ノ責ヲ免ル

ルコトヲ得ス

第二十八條 現金又ハ物品ノ出納ヲ掌ルニ付身元保證金ヲ納メシムルコトヲ要スルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第二十九條 仕拂命令ノ職務ハ現金出納ノ職務ト相兼ヌルコトヲ得ス

第十章 雜 則

第三十條 特別ノ須要ニ因リ本法ニ準據シ難キモノアルトキハ特別會計ヲ設置スルコトヲ得

特別會計ヲ設置スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第三十一條 政府ハ國庫金ノ取扱ヲ日本銀行ニ命スルコトヲ得

第十一章 附 則

第三十二條 本法ノ條項帝國議會ニ關涉セサルモノハ明治二十三年四月一日ヨリ施行シ其ノ關涉スルモノハ帝國議會開會ノ時ヨリ施行ス

決算ニ係ル條項ハ帝國議會ノ議定ヲ經タル年度ノ歲計ヨリ施行ス

第三十三條 本法ノ條項ト牴觸スル法令ハ各々其ノ條項施行ノ日ヨリ廢止ス

○會計法補則 二十三年八月
法律第五十七號

第一條 明治二十三年度歲出豫算中左ノ費用ハ明治二十四年度ノ豫算ニ於テ憲法第六十七條ニ規定シタル大權ニ基ケル既定ノ歲出トス

- 一 文武官ノ俸給及文官退官賜金
- 二 陸海軍軍事費、憲兵費、屯田兵費
- 三 賞勳年金及褒賞費
- 四 外國條約及約束ニ依レル支出
- 五 各應ノ應費及經常修繕費

第二條 帝國議會開會前ニ發布セラレタル法令ニ基ク左ノ費用ハ法律ノ結果ニ由ルノ歲出トス

- 一 帝國議會經費
- 二 裁判所並會計検査院經費
- 三 恩給扶助料罷役恤金及死傷手當
- 四 徵兵費

五 徵稅費(証券印紙切手類製造買戻押印費、郵便札製造費、所得稅調查委員手當、市町村ニ交付スル徵稅費、滯納處分費、差押物件買上代)

- 六 囚徒費
- 七 遞信事業及航路標識費
- 八 内外國難破船費
- 九 沖繩縣及小笠原島地方費
- 十 備荒儲蓄
- 十一 北海道拂下土地買上代
- 十二 恩賞及救助費

第三條 明治二十四年度歲出豫算ニ於テ左ノ費用ハ憲法第七十六條第二項ニ規定シタル政府歲出上ノ義務トス

- 一 神社費
- 二 公債償還利子及拂手數料
- 三 既ニ定マレル效力アル命令ニ依リ毎年各地方ニ付與スヘキ公共工事費補助及警察費聯帶支辨金
- 四 沖繩縣諸祿

- 五 既ニ定マレル效力アル命令ニ依リ航運鐵道製造殖産ノ會社及病院學校ニ付與スヘキ補助又ハ利子保證
 - 六 雇外國人ノ俸給恩給及手當
 - 七 法律上ノ賠償及訴訟費
 - 八 諸拂戻金
 - 九 國庫金取扱費
 - 十 預金利子
 - 十一 既約アル地所家屋借料
- 第四條 明治二十三年度以前ノ歳出豫算ニ於テ數年ヲ期シタル事業ニシテ明治二十四年度ニ至ルマテ未タ竣工ニ至ラサルモノハ繼續費ノ例ニ依ル

○會計規則

二十二年五月 改正 二十六年三月
勅令第六十號 勅令第一百十二號 勅令第二百二十七號
 三十四年三月 三十五年
勅令第五十六號 勅令第二百號

朕會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 會計規則

第一章 會計年度所屬區分、歳入歳出金出納

- 第一條 歳入ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ據ル
 - 第一 納期ノ一定シタル收入ハ其納期末日ノ屬スル年度
 - 第二 隨時ノ收入ニシテ納額告知書ヲ發スルモノハ納額告知書ヲ發シタル日ノ屬スル年度
 - 第三 隨時ノ收入ニシテ納額告知書ヲ發セサルモノハ領收ヲ爲シタル日ノ屬スル年度

第二條 歳出ノ所屬年度ハ左ノ區分ニ據ル

- 第一 公債ノ元利賞勳年金恩給諸祿ノ類ハ仕拂期日ノ屬スル年度
- 第二 諸拂戻缺損補填ハ其拂戻又ハ補填ノ決定ヲ達シタル日ノ屬スル年度
- 第三 俸給手數料旅費ノ類ハ其支給スヘキ事實ノ生シタル時ノ屬スル年度
- 第四 廳中雜費土木建築費其他物件ノ購入代價ノ類ハ契約ヲ爲シタル日ノ屬スル年度但土木建築費ノ如キ契約ノ數年ニ涉ルコトヲ得ヘキモノハ契約ニ據リ定メタル仕拂期日ヲ以テ區分スヘシ
- 第五 前各項ニ掲タル類別ニ入ラサル費用ハ總テ仕拂命令ヲ發シタル日ヲ以

テ年度ノ所屬ヲ定ムヘシ

第三條 毎年度所屬歳入歳出金ヲ金庫ニ於テ出納スルハ翌年度六月三十日限トス

第二章 豫算

第一款 總豫算

第四條 大藏大臣ハ歳入ノ景況ヲ調査シ各省ノ豫定經費要求書ニ基キ歳入歳出總豫算ヲ調製スヘシ

總豫算ノ首ニハ歳計全體ニ關スル説明ヲ付スヘシ

第五條 歳入豫算ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シテ調製シ成ルヘク歳入ノ性質ヲ明示スヘシ

第六條 歳出豫算ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シテ調製シ成ルヘク經費ノ目的ヲ明ニスヘシ

第七條 歳入歳出總豫算款項ノ區分ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第二款 豫定經費要求書

第八條 各省大臣ハ毎年度其所管經費ノ需用高ヲ算定シ前年度ノ定額ト比較ヲ

立テ豫定經費要求書ヲ調製シ前年度八月三十一日マテニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第九條 各省ノ豫定經費要求書ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シ更ニ各項中所要ノ金額ヲ各目ニ區分シ尙ホ必要ノ場合ニ於テハ番號ヲ以テ之ヲ細分シ又經費所要ノ理由計算ノ基ク所ヲ示スヘシ

目ノ區分ハ各省大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ムヘシ

第十條 各省ノ豫定經費要求書ニハ各省所管經費全體ニ關スル説明及各款各項ノ説明ヲ付スヘシ

第三款 仕拂豫算

第十一條 各省大臣ハ毎年度決定ノ豫算定額ニ基キ仕拂命令官毎ニ所要ノ費額ヲ定メ仕拂豫算ヲ調製シ大藏大臣及會計検査院ニ送付スヘシ

仕拂豫算ハ各項ノ金額ヲ示スヘシ

第十二條 仕拂官吏ヲ更定シタルトキハ其計算書ヲ大藏大臣及會計検査院ニ送付スヘシ

第十三條 大藏大臣仕拂豫算若クハ其更定計算書ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ金

庫ニ合達スヘシ

第四款 歳入歳出現計書

第十四條 會計法第六條ニ掲タル歳入歳出現計書ハ大藏省ニ備ヘタル主計簿ニ據リ大藏大臣之ヲ調製スヘシ

第十五條 歳入歳出現計書ニハ總豫算ニ定メタル區分ニ從ヒ其年三月三十一日ヲ以テ終リタル年度ニ屬スル歳入歳出ノ八月三十一日ニ於ケル左ノ事項ノ現計ヲ示スヘシ

歳入ノ部

歳入豫算額

調定済歳入額

收入済歳入額

不納缺損額

收入未済歳入額

歳出ノ部

歳出豫算額

豫算決定後増加歳出額

仕拂命令済歳出額

翌年度繰越額

歳出残額

第五款 豫備金支出

第十六條 豫備金ハ大藏大臣之ヲ管理ス

第十七條 豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途及豫備金ヲ以テ支辨スル費途ノ金額ハ他ノ費途ニ流用スルコトヲ得ス

第十八條 第一豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途ハ毎年度豫メ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 各省大臣第一豫備金ノ支出ヲ要スルトキハ金額理由ヲ示ス所ノ計書ヲ作り大藏大臣ノ承認ヲ經ヘシ

第二十條 大藏大臣第一豫備金ノ支出ヲ承認シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第二十一條 各省大臣第二豫備金ノ支出ヲ要スルトキハ金額理由ヲ示ス所ノ計

算書ヲ作り之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第二十二條 大藏大臣ハ前條ノ計算書ヲ調査シ其意見ヲ付シテ勅裁ヲ請フヘシ

第二十三條 第二豫備金支出ノ勅裁アリタルトキハ大藏大臣其事故金額ヲ會計

検査院ニ通知シ及官報ニ掲載スヘシ

第二十四條 豫備金ヲ以テ補充支辨シタル金額ハ各省大臣其計算書ヲ作り各費

途毎ニ説明ヲ付シ年度經過後五箇月以内ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

大藏大臣ハ豫備金支出ヲ第一豫備金支出ト第二豫備金支出トニ大別シ其總計

算書ヲ作り之ニ説明ヲ付シ各省大臣ヨリ送付シタル豫備金支出ノ計算書ト共

ニ帝國議會ニ提出スルノ手續ヲ爲スヘシ

第三章 收入

第二十五條 收入官吏租稅其他ノ收入金ヲ領收スルトキハ其領收證ヲ納人ニ交

付シ領收濟ノ旨ヲ歳入ヲ徵收スル官吏ニ報告スヘシ

第二十六條 收入官吏ハ大藏大臣定ムル所ノ規則ニ從ヒ毎月一回若クハ數回其

領收シタル金額ヲ金庫ニ拂込ムヘシ但金庫ノ設ナキ運輸通信ノ不便ナル地方

ニ在ル收入官吏ノ領收シタル金額ハ該官吏之ヲ保管シ大藏大臣ノ指定ニ從ヒ

金庫ニ拂込ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十七條 金庫ハ收入官吏又ハ納人ヨリ租稅其ノ他ノ收入金ヲ領收スルトキ

ハ其領收證ヲ拂込人又ハ納人ニ交付シ領收濟ノ旨ヲ歳入ヲ徵收スル官吏ニ通

知スヘシ

第二十八條 (削除)

第二十九條 (削除)

第三十條 歳入ヲ徵收スル官吏ハ其徵收簿ノ結果ニ據リ毎月徵收報告書ヲ調製

シ参照書類ヲ添へ各省大臣ノ定メタル期限ニ之ヲ其事務管理廳ニ送付スヘシ

第三十一條 歳入ノ事務管理廳ハ前條ノ徵收報告書ニ據リ毎月徵收總報告書ヲ

作り之ニ必要ナル参照書類ヲ添へ其翌月中ニ大藏大臣ニ送付スヘシ

第三十一條ノ二 納期ノ一定シタル收入ニシテ納期所屬ノ年度ニ於テ納額告知

書ヲ發セサルモノハ總テ納額告知書ヲ發シタル年度ノ歳入ニ編入スヘシ

第四章 支出

第一款 仕拂命令

第三十二條 仕拂命令官ハ總テ仕拂命令ヲ發スル前其經費ハ正當ニシテ必要ナ

ルヤヲ調査シ該經費ノ金額ヲ算定シ又該經費ハ仕拂豫算額ニ超過スルコトナ
キヤ支出科目及所屬年度ヲ誤ルコトナキヤ該經費ハ豫算ヲ以テ定メラレタル
目的ニ違フコトナキヤヲ調査スヘシ

第三十三條 仕拂命令ニハ債主若クハ其代理人ノ氏名仕拂フヘキ金額支出科目
年度番號ヲ記載スヘシ但支出科目ノ同一ナルモノハ數人ノ債主ニ對シ集合仕
拂命令ヲ發シ別ニ各債主ノ金額氏名表ヲ添ユルコトヲ得

現金前渡ノ仕拂命令ニハ前渡ヲ受クヘキ官吏ノ資格氏名銀行ナレハ其名稱前
渡ヲ爲スヘキ金額支出科目年度及番號ヲ記載スヘシ

第三十四條 仕拂命令ハ一項毎ニ之ヲ發スヘシ

第三十五條 仕拂命令官第三十二條ノ調査ヲ了シタルトキハ其仕拂命令ヲ受取
人ニ交付スヘシ但數人ノ債主ニ對スル集合仕拂命令及仕拂命令ヲ當テタル金
庫所在地外ニ在ル債主ニ仕拂ヲ要スルモノハ直ニ仕拂命令ヲ金庫ニ送付シ受
取人ニ仕拂ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十六條 仕拂命令官前條ニ據リ仕拂命令ヲ受取人ニ交付セントスルトキハ
前以テ案内仕拂命令ヲ金庫ニ送付スヘシ

第三十七條 (削除)

第三十八條 (削除)

第三十九條 現金前渡ノ仕拂命令ハ左ノ區分ニ從ヒ之ヲ發スヘシ

第一 常時ノ費用ニ係ルモノハ每一箇月分ノ費額ヲ豫定シテ仕拂命令ヲ發ス
ヘシ但シ在外各廳ノ經費外國ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費運輸通信ノ不便ナル内
國ノ地方ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費其他仕拂場所ノ一定セサル經費ハ事務ノ必
要ニ由リ二箇月以上六箇月分マテ合セテ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得

第二 隨時ノ費用ニ係ルモノハ所要ノ費額ヲ豫定シテ事務上差支ナキ限リハ
成ルヘク分割シテ仕拂命令ヲ發スヘシ

第三 各廳ニ於テ直接ニ從事スル工事ノ經費ハ工事ノ大小ニ由リ其所要ヲ量
リ六千圓以内ニ於テ仕拂命令ヲ發スヘシ

第四十條 會計法第十五條第八ニ據リ現金前渡ヲ爲シタルトキハ左ノ場合ヲ除
クノ外更ニ同一ノ主任官吏ニ現金前渡ヲ爲スタメ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得
ス

第一 前ニ發シタル仕拂命令ノ金額三分ノ二以上ノ仕拂濟證明アリタルトキ

但此場合ニ於テハ更ニ發スル仕拂命令ノ金額ト前ニ發シタル仕拂命令ノ仕拂濟證明未済ノ金額ト合シテ六千圓ヲ超ルコトヲ得ス

第二 前ニ發シタル仕拂命令ノ金額六千圓未済ニシテ更ニ發スル仕拂命令ノ金額ト合シテ六千圓ヲ超サルトキ

第四十一條 現金前渡ヲ受ケタル官吏監督ノ規則ハ大藏大臣各省大臣ニ協議シテ之ヲ定ムヘシ

第四十二條 會計法第十五條ニ據リ政府ノ命シタル銀行ニ委任シテ現金仕拂ヲ爲サシムル爲メニ發スル現金前渡ノ仕拂命令ハ國債元利金仕拂ノ場合ニ限ル

第四十三條 仕拂命令ハ所屬年度經過後滿五箇年内ハ仕拂ノ請求アル毎ニ金庫ニ於テ仕拂フモノトス

第四十四條 各年度ニ屬スル經費ヲ精算シテ仕拂命令ヲ發スルハ翌年度五月三十一日限リトス

第二款 仕拂命令ノ執行

第四十五條 金庫ハ案内仕拂命令集合仕拂命令若クハ金庫所在地外ニ在ル債主ニ仕拂ヲ要スル仕拂命令ヲ受ケタルトキ其命令合式ニシテ且仕拂豫算各項ノ

金額ニ超過セサルトキハ仕拂ヲ爲スヘシ

金庫ニ於テハ休日ヲ除クノ外毎日其開庫時間内ハ何時ニテモ仕拂命令持參人ニ仕拂命令ト引替ニテ現金ヲ交付スヘシ但集合仕拂命令金庫所在地外ニ在ル債主ニ仕拂ヲ要スル仕拂命令ニ對シテハ領收證書ト引替ニ現金ヲ交付スヘシ

第四十六條 左ノ場合ニ於テハ事由ヲ仕拂命令持參人ニ告ケ金庫ニ於テ仕拂命令ノ執行ヲ拒ムヘシ

第一 案内仕拂命令ノ到着セサルトキ

第二 仕拂命令ト案内仕拂命令ト符合セサルトキ

第三 仕拂命令汚損シ案内仕拂命令ト照合シ難キトキ

第四十七條 各年度ノ仕拂命令ニシテ翌年度六月三十日マテニ仕拂ノ請求ナキ仕拂命令済金額ニ相當スル資金ハ會計法第二十條ノ歲計剩餘ニ組入レヌ國庫ニ於テ繰越整理スヘシ

第四十八條 前條ノ資金中年度經過後滿五箇年内ニ仕拂ノ請求ナクシテ會計法第十八條ノ期滿免除ニ據リ政府カ負債ノ義務ヲ免レタルモノアルカ爲メ不用トナリタルモノハ其負債ノ期滿免除トナリタル年度ノ歲入ニ組入ルヘシ

第三款 計算報告

第四十九條 金庫出納役ハ毎月仕拂命令受領濟額報告書ヲ調製シ其翌月中ニ大藏省ニ送付スヘシ但運輸不便ノ土地若クハ遠隔ノ地方ニシテ本文期限ニ據リ難キモノハ豫メ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五十條 (削除)

第五章 決算

第一款 總決算

第五十一條 歳入歳出總決算ハ總豫算ト同一ノ區分ニ據リ大藏大臣之ヲ調製スヘシ

第二款 各省決算報告書及收入支出計算書

第五十二條 各省大臣ハ翌年度十一月三十一日マテニ各省豫定經費要求書ト同一ノ區分ニ據リ其省所管ニ屬スル經費ノ決算報告書ヲ調製シ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

歳入ヲ徵收スル官吏ハ會計検査院ニ證明ノ爲メ毎年度歳入徵收額計算書ヲ調製シ證書類ヲ添ヘ其歳入事務管理廳ニ送付シ歳入事務管理廳ハ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

検査院ニ送付スヘシ

仕拂命令官ハ會計検査院ニ證明ノ爲メ毎月支出ノ計算書ヲ調製シ證書類ヲ添ヘ其主管大臣ニ送付シ主管大臣ハ會計検査院ニ送付スヘシ
本條第二項第三項ノ場合ニ於テ歳入歳出ニ關スル計算書ハ特ニ監督ノ任アル官吏若クハ特ニ主管大臣ヨリ委任ヲ受ケタル官吏ヨリ直ニ會計検査院ニ送付セシムルコトヲ得

第三款 國債計算書

第五十三條 國債計算書ハ大藏大臣之ヲ調製スヘシ

第五十四條 國債計算書ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

第一 當該年度末日ニ於ケル國債ノ種類及現高ヲ示ス所ノ計算

第二 當該年度ニ於テ償還シ及仕拂タル各種國債ノ元高及利息ノ計算

第三 最近五箇年度間ニ於ケル各種國債増減ノ形況ヲ示ス所ノ計算

第四款 特別會計計算書

第五十五條 特別會計計算書ハ會計法第三十條ニ據リ特別ノ會計ヲ立ルコトヲ許サレタル事務ヲ管理スル所ノ各省大臣之ヲ調製シ毎年度經過後五箇月以内

ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第五十六條 特別會計計算書ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

第一 收入計算

第二 支出計算

第三 最近五箇年度間資金ノ増減

第四 最近五箇年度間損益ノ比較

第六章 定額繰越過年度支出定額戻入

第一款 定額繰越

第五十七條 各省大臣會計法第二十一條及第二十二條ニ據リ定額ノ繰越ヲ要スルトキハ翌年度五月三十一日迄ニ繰越計算書ヲ作り大藏大臣ノ承認ヲ求ムヘシ

本條繰越計算書ハ歳出豫算ノ區分ニ從ヒ調製シ左ノ事項ヲ示スヘシ

第一 繰越ヲ要スル項ノ定額

第二 右定額ニ對シ既ニ仕拂命令済トナリタル額及當該年度所屬トシテ仕拂命令ヲ發スヘキ額

第三 右定額ニ對シ仕拂命令ヲ發スヘキ額即チ翌年度ニ繰越ヲ要スル額

第四 右定額中全ク不用ニ歸シ決算ニ於テ取消スヘキ額

第五十八條 會計法第二十一條ニ據リ年度内ニ其經費ノ支出ヲ終ラサリシ金額ヲ翌年度ニ繰越サントスルトキハ其繰越サントスル金額ノ計算書ニ各事件毎ニ竣功遅延ノ事由ヲ示シ又請負ニテ爲サシムル工事若クハ製造ナレハ竣功遅延ノ事由ノ外ニ請負人職業住所氏名ヲ示シ契約書ノ寫ヲ添ユヘシ

第五十九條 大藏大臣各省定額ノ繰越ヲ承認シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第二款 過年度支出

第六十條 過年度ニ屬スル經費ノ支出ヲ爲ストキハ現年度各省定額ニ對シ仕拂命令ヲ發スヘシ

第六十一條 (削除)

第六十二條 第六十條ニ據リ支出セントスル經費ノ金額ハ豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキモノノ外其經費所屬年度ノ豫算ニ於テ該經費ノ屬スル毎項定額中不用トナリタル金額ヲ超過スヘカラス

第三款 定額戻入

第六十三條 仕拂命令官會計法第二十三條但書ニ據リ定額ノ戻入ヲ爲サントスルトキハ其旨ヲ金庫ニ通知スヘシ

第六十四條 金庫ハ定額ニ戻入ヲナシタルトキハ其旨ヲ仕拂命令官ニ通知スヘシ

第六十五條 各年度ニ屬スル定額戻入ヲ爲スハ翌年度五月三十一日ヲ過クルコトヲ得ス

第六十六條 (削除)

第七章 政府ノ工事及物件ノ賣買貸借

第一款 總 則

第六十七條 各省大臣千圓以上ノ工事ニ付テハ竣功ノ後其工事ヲ監督シタル官吏又ハ技術者ヲシテ之カ調書ヲ作ラシムヘシ
契約ニ據リ工事ノ既濟部分又ハ物品ノ既納部分ニ對シ完濟前ニ代價ノ一部分ヲ仕拂ハントスルトキハ各省大臣ハ特ニ検査ノ官吏ヲ命シテ事實ヲ調定シ其調書ヲ作ラシムヘシ

仕拂命令官ハ前各項ノ調書ニ據ルニアラサレハ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得ス
第六十八條 前條第二項ノ仕拂ヲ爲サントスルトキハ工事ニ付テハ其既濟部分ニ對スル代價ノ十分ノ九物品ニ付テハ其既納部分ニ對スル代價ヲ超ユヘカラス但箇箇ニ分立シ得ヘキ性質ノ工事ニ於ケル各箇ノ完濟部分ニ對シテハ其代價ノ全額マテヲ仕拂フコトヲ得

第六十九條 工事又ハ物品供給ノ競争ニ加ハラントシ若クハ其契約ヲ結ハントスル者ハ其工事又ハ物品ノ供給ニ二年以來從事スルコトヲ證明スヘシ
各省大臣ハ工事又ハ物品ノ性質ニ依リ必要アルトキハ前項ノ外特ニ省令ヲ以テ其競争者ノ資格ヲ定ムルコトヲ得

工事又ハ物品賣買ノ競争ニ加ハラントシ若クハ其ノ契約ヲ結ハントスル者ハ現金又ハ公債證書ヲ以テ保證金ヲ納ムヘシ
第六十九條ノ二 各省大臣ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スト認メタル者ハ爾後二箇年間工事又ハ物品賣買ノ競争ニ加ハルコトヲ得ス其之ヲ代理人支配人番頭又ハ手代トシテ使用シタル者亦同シ
一 工事又ハ物品供給ノ契約ヲ履行スルニ當リ故意ニ工事又ハ物品ヲ粗雜ニ

シタル者

一 競争ニ際シ漫ニ價格ヲ競上ケ若クハ競下クルノ目的ヲ以テ連合ヲ爲シタル者

一 競争ノ加入ヲ妨害シ若クハ競落者ノ契約履行ヲ妨害シタル者

一 工事又ハ物品ノ検査監督ニ際シ掛員ノ職務執行ヲ妨ケタル者

一 前各號ニ該當スト認メラレタル後二箇年ヲ經過セサル者ヲ工事請負又ハ物品賣買ニ際シ代理人支配人番頭又ハ手代トシテ使用スル者

第六十九條ノ三 前條ニ該當シタル者ヲ入札代理人トシテ使用スル者ハ競争ニ加ハルコトヲ得ス

第七十條 前條ノ保證金ハ左ノ制限ニ據リ各省大臣之ヲ定ムヘシ

第一 競争ニ加ハラントスル者ハ其事項ノ見積代金ノ百分ノ五以上

第二 契約ヲ結ハントスル者ハ其事項ノ代金ノ百分ノ十以上

第七十一條 競争ノ落札者請負又ハ賣買ノ契約ヲ結ハサルトキハ其保證金ハ政府ノ所得トス

第二款 競争契約

第七十二條 競争ハ總テ入札ノ方法ヲ以テ之ヲ行フヘシ

第七十三條 入札ノ方法ヲ以テ工事又ハ物件ノ賣買貸借ヲ契約セントスルトキハ其入札期日ヨリ少クモ十五日以前ヨリ揭示又ハ官報新聞紙其他ノ方法ヲ以テ成ルヘク廣ク公告スヘシ但シ要急ノ場合ニ於テハ公告期間ヲ七日迄ニ短縮スルコトヲ得

第七十四條 前條ノ公告ハ左ノ事項ヲ示スヘシ

第一 競争入札ニ付スル事項

第二 契約書案ヲ示ス場所及其契約ノ取結ヲ擔任スル官吏ノ官氏名

第三 競争執行ノ場所日限及時刻

第四 入札ノ保證金額

第七十五條 各省大臣若クハ其委任ヲ受ケタル官吏ハ其競争入札ニ付シタル工事又ハ物件ノ價格ヲ豫定シ其豫定價格ヲ封書トシ開札ノトキ之ヲ開札場所ニ置クヘシ

第七十六條 開札ハ公告ニ示シタル場所日限時刻ニ入札人ノ面前ニ於テ之ヲ行フヘシ但入札人出席セサルカ又ハ出席セサル者アルトキハ入札ニ關係ナキ官

吏ヲシテ開札ニ立會ハシムヘシ

入札人ハ一旦提出シタル入札書ノ引換變更又ハ取消ヲ爲スコトヲ得ス
競争加入ノ資格ナクシテ爲シタル者ノ入札ハ無効トス

第七十七條 開札ノ上ニテ各人ノ入札中一モ第七十五條ニ據リ豫定シタル價格ノ制限ニ違セサルトキハ直ニ出席入札人ヲシテ再度ノ入札ヲ爲サシムルコトヲ得

第七十八條 落札トナルヘキ同價ノ入札ヲ爲シタル者數名アルトキハ直ニ抽籤ヲ以テ落札人ヲ定ムヘシ

第七十九條 競争ノ落札者請負又ハ賣買貸借ノ契約ヲ結ハサルトキハ更ニ競争ヲ行フヘシ但本條ノ場合ニ於テハ第七十三條ノ期限ヲ七日マテニ短縮スルコトヲ得

第八十條 工事及物件ノ賣買貸借契約書ニハ其契約セントスル事項ノ細密ナル設計仕譯落成期限、受渡期限、保證金額、契約違背ノトキ保證金ニ對スル處分其他一切必要ナル條件ヲ掲クヘシ

第八十一條 契約ハ各省大臣若クハ特ニ其委任ヲ受ケタル官吏其契約書ニ署名

捺印スルニアラサレハ確定セサルモノトス

第三款 隨意契約

第八十二條 隨意契約書ハ第八十條及第八十一條ニ準據シ之ヲ作ルヘシ但一口一千圓未滿ノ隨意契約ノ場合ニ於テハ本文ノ契約書ヲ省略スルコトヲ得

第八十三條 隨意契約ノ場合ニ於テハ各省大臣ノ見込ニヨリ第六十九條ノ規定ニ據ラサルコトヲ得

第八章 出納官吏

第一款 收入官吏、現金前渡ヲ受ケタル官吏

第八十四條 出納官吏ハ其責任ニ屬スル會計ニ付自身ニ事務ヲ執ラサルヲ理由トシテ其責任ヲ免ルコトヲ得ス但各省大臣ノ命令ヲ以テ特ニ其代理官若ハ分任官ヲ定メタルトキ其代理官若クハ分任官ノ所爲ニ付テハ本條ノ限ニアラス前項代理官ハ出納官吏ノ事務ノ全部ヲ代理シ分任官ハ其一部ヲ分掌スルモノトス

第八十五條 各省大臣ノ命シタル出納官吏代理官若クハ分任官ハ其所爲ニ付會計法第二十六條ノ責任ヲ免ルコトヲ得ス

第八十六條 出納官吏ハ現金前渡及現金收入ニ關シ大藏大臣ノ指揮監督ヲ受ク

第八十七條 (削除)

第八十八條 各省大臣ハ所屬出納官吏ノ所爲ニ由リ政府ノ損失ヲ生シタリト認ムル場合ニ於テハ會計検査院ノ判決以前ト雖モ其出納官吏ニ向テ辨償ヲ命スルコトヲ得

第八十九條 前條ノ場合ニ於テ其辨償ヲ命セラレタル出納官吏負擔ノ責ヲ免ルヘキ理由アリト信スルトキハ計算書ヲ作り證憑書類ヲ添へ本屬大臣ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ送付シ其判決ヲ求ムルコトヲ得

各省大臣ハ前項ノ場合ト雖モ其命シタル損失金ノ辨償ヲ猶豫セス
會計検査院ニ於テ其出納官吏ニ向ツテ辨償ノ責ナシト判決シタルトキハ其既納ニ係ル辨償金ハ直ニ之ヲ還付ス

第九十條 (削除)

第九十一條 收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ハ毎年三月三十一日若クハ該官吏轉免死亡停職ノトキ本屬大臣検査員ヲ命シテ之ヲ検査セシムヘシ但臨時ニ現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ハ定時ノ検査ヲ要セス

大藏大臣又ハ各省大臣ハ必要ト認ムルトキハ臨時ニ検査員ヲ命シテ收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ヲ検査セシムルコトアルヘシ

第九十二條 前條ノ検査ヲ執行スルニ當リ主務ノ出納官吏事故ニ由リ自身検査ヲ受クル能ハサルトキハ其代理者若クハ特ニ本屬大臣ノ命シタル官吏ニ於テ立會ヲ爲スヘシ

第九十三條 收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ヲ検査シタルトキハ其檢定書二通ヲ製シ検査員及主務ノ出納官吏若クハ立會人之ニ署名シ一通ハ該官吏若クハ立會人ニ交付シ一通ハ本屬大臣ニ提出スヘシ

第九十四條 收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏他ノ公金ノ出納ヲ兼掌スルトキハ別ニ検査ノ方法アルニ拘ハラヌ金櫃ノ検査ヲ執行スル場合ニ於テハ他ノ公金ヲ併セテ検査ヲ行フヘシ

第九十五條 (削除)

第九十六條 (削除)

第九十七條 收入官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲メ一年度内ニ執行シタル出納ノ計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添へ歳入ヲ徵收スル官吏ニ送付シ歳入

ヲ徵收スル官吏ハ其下検査ヲ執行シ下検査書ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第九十八條 現金前渡ヲ受ケタル官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲メ毎月仕拂計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ仕拂命令官ニ送付シ仕拂命令官ハ其下検査ヲ執行シ下検査書ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ但行軍費航海費ノ如キハ行軍若クハ航海ノ終リタルトキ本條ノ手續ヲ爲スコトヲ得

第九十八條ノ二分任出納官吏ノ出納ハ總テ主任出納官吏ノ計算トシテ取扱ヒ其報告書及計算書ハ各別ニ提出ヲ要セス但各省大臣若クハ會計検査院ニ於テ必要ト認ムルトキハ特ニ分任出納官吏ヲシテ報告書又ハ計算書ヲ提出セシムルコトアルヘシ

第九十九條 出納官吏交替ヲ爲シタルトキハ其在職期間ニ執行シタル會計ノ計算書ヲ調製シ第九十七條第九十八條ノ手續ヲ爲スヘシ

第一百條 出納官吏死亡其他ノ事故ニ由リ自身ニ計算書ヲ調査スル能ハサルトキハ各省大臣特ニ命シタル官吏ヲシテ之ヲ調製セシムヘシ
出納官吏定期内ニ計算書ヲ送附セサルトキハ各省大臣ハ他ノ官吏ニ命シテ之

ヲ調製セシムヘシ

本條ニ據リ調製シタル計算書ハ出納官吏ノ自身ニ調製シタルモノト看做シ會計検査院ニ於テ検査判決ヲ爲スヘシ

第一百一條 出納官吏ノ計算書ハ提出ノ後修正變更スルコトヲ得ス

第一百二條 會計法第二十八條ニ依リ出納官吏ノ納ムヘキ身元保證金額ハ各省大臣之ヲ定メ會計検査院ニ通知スヘシ

出納官吏相當ノ資産アル者二人以上ヲ以テ保證人ト爲ストキハ各省大臣前項ノ身元保證金ノ全部若クハ一部ヲ免除スルコトヲ得此場合ニ於テハ各省大臣ヨリ其保證人ノ住所氏名職業ヲ會計検査院ニ通知スヘシ但保證人ノ責任ハ免除シタル保證金額ニ止ルモノトス

第一百三條 身元保證金ハ現金ヲ以テ納ムヘシ但公債證書若クハ土地ヲ以テ現金ニ代用スルコトヲ得

第一百四條 身元保證ノ現金ハ大藏省預金局通常預金ノ利子ヲ付スヘシ
身元保證ニ供スル公債證書若クハ土地ハ出納官吏ヨリ各省大臣若クハ各省大臣ノ指定シタル官吏ニ書入トシ其土地ハ出納官吏ノ私費ヲ以テ登記ヲ受クヘシ

第二百五條 會計検査院ノ判決ニ依リ各省大臣出納官吏ノ損失金辨償ヲ命シタル場合ニ於テ其指定シタル期限内ニ出納官吏ヨリ損失金ノ辨償ヲ爲ササルトキハ其身元保證金ヲ以テ辨償ニ充ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ身元保證金ニ代用シタル公債證書若クハ土地ハ各省大臣之ヲ公賣ニ付シ其代價ヨリ公賣ニ關スル費用及損失金額ヲ差引シ剩餘アルトキハ出納官吏ニ返付スヘシ

保證人ヲ以テ身元保證金ノ免除ヲ得タル官吏損失金ノ辨償ヲ命セラレタル場合ニ於テ辨償スルコト能ハサルトキハ其保證人ヲシテ損失金ヲ辨償セシムヘシ

第二百六條 前條ノ場合ニ於テ出納官吏ノ身元保證金ヲ以テ損失金ノ辨償ニ充ルニ足ラサルトキハ其不足ハ出納官吏ヨリ徴收スヘシ

第二百七條 出納官吏數職ヲ兼務シタルカ爲メ各職毎ニ身元保證ヲ爲シタルト雖モ身元保證金ハ出納官吏ノ責任其何職ヲ行ヒタルヨリ生シタルヲ問ハス流用シテ辨償ニ充ツヘシ

第二百八條 (削除)

第二百九條 (削除)

第二百十條 出納官吏ノ身元保證金ハ其解職後會計検査院ニ於テ其官吏ノ執行シタル會計事務ニ付責任解除ヲ與ヘタル後ニ非サレハ之ヲ還付セス

第二款 金庫出納役

第二百十一條 會計法第三十一條ニ據リ國庫金ノ取扱ヲ日本銀行ニ命シタル場合ニ於テハ日本銀行總裁ハ金庫出納役トシテ金庫ノ出納ヲ掌ルヘシ

金庫出納役ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲メ一年度内ニ執行シタル出納ノ計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ
金庫出納役ハ會計検査院ノ検査ヲ受クル爲メ毎月各金庫出納内譯書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ大藏大臣ニ送付スヘシ
大藏大臣ハ前各項ノ出納計算書及内譯書ヲ調査シ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第九章 帳簿

第二百十二條 大藏省ハ日記簿、原簿、補助簿ヲ備ヘ國庫ノ計算ニ入ルヘキ一切現金ノ出納ヲ登記スヘシ

第一百三條 大藏省ハ歳入歳出ノ主計簿ヲ備ヘ總テ歳入ノ豫算額、調定濟額、收入濟額、不納缺損額、收入未濟額、歳出ノ豫算額、豫算決定後増加額、仕拂命令濟額、翌年度繰越額、殘額ヲ登記スヘシ

第一百四條 歳入ヲ徵收スル官吏ハ徵收簿ヲ備ヘ歳入ノ種類ヲ區分シ調定濟額、收入濟額、不納缺損額、收入未濟額ヲ登記スヘシ

第一百五條 歳入ノ事務管理廳ハ歳入簿ヲ備ヘ歳入ノ種類ヲ區分シ歳入ノ豫算額、調定濟額、收入濟額、不納缺損額、收入未濟額ヲ登記スヘシ

第一百六條 金庫出納役ハ支出簿ヲ備ヘ歳出ノ科目ヲ區分シ仕拂豫算額、仕拂命令受領濟額ヲ登記スヘシ

第一百七條 (削除)

第一百八條 收入官吏、現金前渡ヲ受ケタル官吏及金庫出納役ハ現金出納簿ヲ備ヘ現金ノ出納ヲ登記スヘシ

第一百九條 各年度經過後七箇月ノ末日ニ於テ大藏大臣ハ會計検査官立會ノ上ニテ大藏省ニ備ヘタル主計簿ヲ締切ルヘシ

第十章 雜 則

第二十條 本規則ニ據リ當該官吏及金庫出納役ヨリ會計検査院ニ提出スル所ノ證明書ニ關スル規程様式ハ會計検査院ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第二十一條 前條ノ外本規則ニ掲クル諸計算書仕拂命令領收證ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第二十二條 帳簿ノ様式及記入ノ方法ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第二十三條 本規則ハ明治二十三年四月一日ヨリ施行ス
本規則ト抵觸スル命令ハ本規則施行ノ日ヨリ總テ廢止ス

○物品會計規則

二十二年六月
勅令第八十四號

改正

二十四年
勅令第七十七號

三十三年
勅令第三百十八號

朕物品會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

物品會計規則

第一條 此ノ規則ニ於テ物品ト稱スルハ政府ニ屬スル器具、器械、備品、消耗品、動物其ノ他一切ノ動産ヲ云フ但シ陸海軍ノ兵備ニ關スルモノハ各其ノ規則ニ依ル政府ノ保管ニ屬スル物品ニシテ各省大臣ニ於テ特ニ指定スルモノハ本規則ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ各省大臣ヨリ會計検査院ヘ通知スヘシ

第二條 物品ノ會計ハ總テ年度ヲ以テ區分シ毎年四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル十二箇月ヲ以テ一年度トス

第三條 物品ノ會計ハ現ニ其ノ出納ヲ執行シタル日ヲ以テ年度ノ所屬ヲ區分スヘシ

第四條 物品ヲ保管シ之カ出納ヲ掌ル者ヲ物品會計官吏トス

第五條 總テ物品ハ責任アル官吏ノ保管ニ付スヘシ

第六條 物品會計官吏ハ各省大臣ノ定メタル規程ニ據リタル命令アルニアラサレハ物品ヲ出納スルコトヲ得ス

第七條 物品會計官吏ハ其ノ故意怠惰ニ由リ保管ノ物品ヲ亡失毀損シタルトキハ辨償ノ責ニ任スヘシ

第八條 各省大臣ノ定メタル規程ニ據リ各官吏以下ノ使用ニ供シタル物品ノ亡失毀損ニ就テハ物品會計官吏ハ合規ノ監督ヲ怠リタル場合ノ外ハ其ノ責任ヲ免ルコトヲ得

第九條 物品會計官吏ハ各省大臣ノ命シタル代理官ノ所爲ニ就テハ其ノ責任ヲ免ルコトヲ得

物品會計官吏ノ代理官ハ其ノ代理セル所爲ニ就テハ物品會計官吏タルノ責任ヲ免ルコトヲ得ス

第十條 物品會計官吏ハ物品ノ出納帳簿ヲ備ヘ其ノ出納ノ事實ヲ登記スヘシ物品ノ消耗賣拂亡失毀損生産ノ爲メノ消費及其ノ他物品會計官吏ノ保管ヲ離ルルヲ出トシ買入生産及其ノ他其ノ保管ニ屬スルヲ納トス

第十條ノ二 各省大臣ハ検査ノ官吏ヲ命シ四年以内ヲ以テ一期トシ物品會計官吏ノ保管スル物品ノ全部ヲ精細ニ検査セシメ其ノ調書ヲ作ラシムヘシ但シ廳費ニ屬スル物品ハ各省大臣適宜ノ検査方法ヲ設クヘシ

第十一條 常時出納ヲナササル倉庫若ハ貯藏所ノ物品ハ各省大臣ヨリ毎年一回若ハ物品會計官吏交替ノ際検査ノ官吏ヲ命シ目錄ト現在品ノ照合ヲナサシメ其ノ調書ヲ作ラシムヘシ

第十二條 在外各廳其ノ他特ニ主任ノ官吏ヲ置ク能ハサル支部局ニアル物品ハ各省大臣ヨリ毎年一回若ハ物品會計官吏交替ノ際検査ノ官吏ヲ命シテ現在品及出納ノ實況ヲ調査セシメ其ノ調書ヲ作ラシムヘシ

第十三條 第十條ノ二第十一條第十二條ノ調書ニハ検査官吏及検査ヲ受ケタル

物品會計官吏若ハ特ニ命セラレタル立會人之ヲ署名スヘシ

第十四條 (削除)

第十五條 物品會計官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受ル爲メ毎年度間ニ執行シタル物品出納ノ計算書ヲ製シ會計検査院所定ノ期限内ニ證憑書類ヲ添ヘ之ヲ本屬大臣ニ差出スヘシ

物品會計官吏交替ヲ爲シタルトキ前任官吏ハ前項ニ準シテ計算書ヲ差出スヘシ但シ前任官吏死亡其ノ他ノ事故ニ由リ自身計算書ヲ調製スル能ハサル場合ニ於テハ各省大臣ハ他ノ官吏ニ命シテ之ヲ調製セシムヘシ

第十六條 前條第二項但書ニ據リ調製シタル計算書ハ責任ヲ有スル物品會計官吏ノ自身ニ調製シタルモノト同一ニ看做シ會計検査院ニ於テ検査判決ヲナスヘシ

第十七條 各省ノ部局長若ハ特ニ監督ノ任アル官吏ハ第十五條計算書ノ下検査ヲ執行シ其ノ下検査書ヲ添附シラ之ヲ會計検査院ヘ送付スヘシ

第十八條 當時出納ヲナササル倉庫若ハ貯藏所ノ物品又ハ在外各廳其ノ他特ニ主任ノ官吏ヲ置ク能ハサル支部局ノ物品ヲ保管スル物品會計官吏ハ第十一條

又ハ第十二條ノ調書ヲ以テ第十五條ノ計算書ニ代ヘ責任ノ解除ヲ會計検査院ニ求ムルコトヲ得

第十八條ノ二 會計検査院法第十六條ニ依リ委託検査ニ付シタル物品ニ對シテハ帳簿ヲ以テ出納ヲ證明セシメ第十五條ノ計算書ヲ省略スルコトヲ得

第十九條 會計規則第八十四條、第八十五條、第八十八條、第八十九條、第九十八條ノ二及第百二條乃至第百十條ハ物品會計官吏ニ準用ス

第二十條 物品ノ保管出納ニ關スル規定及帳簿ノ様式ハ各省大臣之ヲ定メ發布前會計検査院ヘ通知スヘシ

第二十一條 官吏ノ執務上必要ナル物品ノ交付及其ノ交付ヲ受タル官吏ノ責任ニ就テハ各省大臣之ヲ規定スヘシ

第二十二條 此ノ規則ハ明治二十二年十月一日ヨリ施行ス

會計法釋義

終

大正七年五月十五日印刷
大正七年五月十八日發行

會計法釋義

定價金壹圓貳拾錢



發行者兼

筋 瀨 德 松

京城府初音町二百四番地

印刷者

明 石 桐 一

京城府明治町一丁目五十四番地

印刷所

日 韓 印 刷 所

京城府明治町一丁目四十五番地

發賣所

東京市神田
仲猿樂町

電話本局二二五四番
振替東京六五五六番

巖松堂書店

朝鮮京城府
本町二丁目

電話一三六六番
振替京城二四四四番

巖松堂京城店



38

366
90

終